

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社おいらーく	代表者	星野 二三江	法人・事業所の特徴	法人グループ内では病院を中心として医療・介護事業所を複数運営している。法人内にとどまらず、外部機関や事業所との連携に努め、「通い」「訪問」「泊り」の柔軟な組み合わせを意識しながら、住み慣れた自宅での生活を安心して送れるように、ご家族や地域の方の協力を得ながら支援を行っている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所えくぼ／サテライトえくぼ	管理者	大場 絢太		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	1人	1人	1人	3人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価への取り組みを、事業所内のサービス向上委員会の活動の一環に取り入れる。	委員会活動でアンケートを実施。結果を踏まえ、今後の活動内容を検討する。	職員自身の評価が比較的低い印象で消極的な評価を感じる。自分達に自信が持てていないのだろうか。	出来ているかどうかの比較がわかりづらいので、今回は自己評価の判断基準を明確にする。
B. 事業所のしつらえ・環境	季節感をイメージしたレイアウト作りは継続していく。利用者のご家族、知人等からの意見も取り入れて一緒に作り上げていく空間にする。	利用者と季節ごとの装飾作りなどを日々の活動として実践。事業所内の物の配置や環境面での意見は充分に取り入れられていない。	事業所環境やしつらえについて、特に悪いと感じるところもないが、もっと良く出来るのであれば期待したい。	普段利用する方々が楽しく快適に過ごせるよう、今後も状況に合わせた改善を継続していく。
C. 事業所と地域のかかわり	事業所外への協力も、法人内の連携で済ませるのではなく、地域の窓口にも関わりを持っていく。	地域とは町内会行事に参加している程度。	事業所の名前は町内会役員の中では知られている。	どんな方に何が出来る事業所なのか、よりわかりやすく近隣の方にも伝えられるよう広報していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者の近隣の方との関係性も可能な範囲で聞き取りを行い、馴染みの関係の方などがいれば、支援の中で関わりをもっていく。	利用者の近隣や知人等との関わりは広がっておらず、聞き取りも本人・家族からの情報がほとんど。	外に出て活動をしているのも見えて伺える。	登録者以外の方へのかかわりについて、具体的な支援内容やどのような役割を持てるのか、検討する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	推進会議は、ただ話し合いを行うだけではなく、何か行事を絡めて行う事も検討する。利用者ご家族の参加も促せるような行事も考える。	行事への家族参加は少しみられたが、事業所内の取り組みを上手く伝えられていない。	推進会議に家族が参加できることや、いつ開催されているのかの周知が足りず伝わっていない。	家族会、地域カフェなど併せて企画する。

F. 事業所の 防災・災害対策	防災計画の見直しを行い、それに沿った訓練の実施を行う。その際は、推進会議や利用者ご家族の協力も極力頂けるよう働きかける。	火災以外の対策への着手が出来ていない。地震、風水害も想定した対策が必要。	事業所から地域の防災訓練への参加がなく、事業所の訓練への参加の呼びかけもない。	地域訓練に参加するとともに、災害時の防災計画をより具体的に立て、訓練の実施まで行う。
--------------------	--	--------------------------------------	---	--